

豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

酒をやめて20年近くになる。もともと、あまり好きで飲みだした酒ではないが、歳とともに太ってきたので、晩酌をやめたのである。そうすると妙なもので、わずかばかりの酒で、酔いの回るのが早くなった。最近、宴席でのお付き合いもお断りするほど、まったく飲めなくなった。お付き合いがだんだんつらくなっている。

そうしたある日、ゴルフ場で、昼食時に、一緒にプレーをした知人からビールをすすめられた。私はとっさに、料理を運んでくれた年配の女性に、「未成年なので飲めないから、お水をお願いします」と言った。

すると彼女は「成人式を迎えられたら、お飲みになってください」

私はそれを聞いて、なんと気のきいた一言だろう、と感心した。たったそれだけのことで、非常にすがすがしい気分になった。

人間関係や仕事は、ちょっとした言い回し一つで、良くもなればダメにもなる。同じ意味合いのことを言って、好意的に受け取られる人と、そうでない人の差は、ここにあるように思う。

だが、そうと知っていながら、相手に良い印象を与える言葉よりも、マイナス効果をもたらす言葉を口にする人のほうが圧倒的に多いのではないか。最近も電車内で、ちょっとした言葉の行き違いから喧嘩になり、殺人にまで至ったという事件が新聞に載っていた。うかつな一言が、相手を深く傷つけたり、売り言葉に買い言葉、というふうにどんどん険悪な方向に行って、人間関係をむしばんでいくことも少なくない。

しかし、こういう一言が、じつは私たち自身に多いことは、日常体験



している事実である。

そこで、たとえば、熱くなっている相手に、「ムキになるな」とは言わず、「君が熱心なのを見ると、僕もうれしいよ」と言ってみてはどうだろうか。

また、「結論を先に言え」と言いたいところを、「一番重要だと思う点は、何だと思う？」と言ってみてはどうか。

より良い人間関係を築くためには、相手の立場、自尊心を傷つけない言葉の配慮というものが、必要ではないだろうか。

ゴルフ場の、女性の一言で、そんなことを考えた次第です。

(2001年・物も言いよで角が立つ、丸くなったり四角になったり)